



立秋は過ぎましたが、まだとても暑い日が続いています。7月23日には、国連のグテーレス事務総長が地球「温暖化 (Warming)」の時代は終わって、地球「沸騰化 (Boiling)」の時代に入ったと話しています。体調の管理に十分気を付けてお過ごしください。

先の戦争の悲惨さを振り返り、二度と戦争はすまい、と決意すべきこの時期に、岸田首相はまた、アメリカに行って「対処力」「抑止力」の強化として、新型ミサイルの共同開発に踏み込もうとしています。

そんなことより、国内でやらなければならないことがいっぱいあります。電気・ガス代などのエネルギー費用をはじめ目白押しの物価高騰の対策こそ待ったなしです。全く手を打っていないのではないかと思います。

また、マイナンバーカードをめぐる騒動は収まる気配がありません。国民に無理強いをして、自治体や各機関の負担を強めて、しゃにむに「政府一丸」となっているように進めようとしています。そもそも不必要なことにカネとヒトとジカンを使っている無駄の塊ではないでしょうか。一度立ち止まって考え直すべきでしょう。

(代田2丁目・伊東 宏)



(代田1丁目・岩瀬 薫)

あらためて、ウクライナの教訓とは？

モスクワ中心部などで相次いだドローン攻撃が、ウクライナによる一種のデモだとすると、そこにはロシアと共に米国をも牽制する狙いがあると言われます……自国の都合でロシアとの手打ちを画策などしようものなら、本気で国境を越えて戦線を拡大するぞ、と。停戦は遠のく一方、そう思えてなりません。

岸田首相は「ウクライナは明日の東アジアかもしれない」と繰り返して危機感をあおり、そのおかげで世論調査では、国民の過半数が軍拡支持という結果が出ています。確かに日本の安全保障を考える上で、現在進行形のウクライナ戦争に学ぶことは、とても大切かつ有効です。でもそこから得られる教訓は、本当に「軍拡やむなし」なのでしょうか？

ロシアの侵攻開始の引き金となったのは、ウクライナが防衛のための軍事力を強化すべく、NATO への加盟を目指したことでした。

ゼレンスキー大統領は米国はじめ NATO 諸国を味方と頼み、懸命に軍事支援を求めますが、世界大戦化を恐れる（だから冒頭の「脅し」が効くのですが…）各国は武器を供与してくれるだけ。「自衛」の大義と各国の思惑のもと、戦場はウクライナ国内に限られ、「善戦」すればするほど、インフラと産業と自然環境、そして民間人を含む人命が、破壊され失われ続けます。

原発はロシア軍に占拠されたため、周辺の広い地域の住民がいわば丸ごと人質にとられた状態です。

こうしてみると、軍拡も NATO との連携強化も原発増設も、岸田内閣が強引に進めようとしている政策の数々は、ウクライナ戦争が「やってはいけない」と教えてくれていることばかりじゃないですか!!

むろん、ウクライナ対ロシアの関係と、例えば日本と中国の関係は同じではない。でも多くの類似点があることは、首相がいみじくも示唆する通りです。政権とメディアが喧伝する「軍拡やむなし」論のウソに、そろそろ国民が気づかないと、本当にウクライナの「ドロ沼」が明日の日本になりかねない……心底、恐怖です。

(梅丘1丁目・真藤 一彦)

森村 誠一さんを偲んで

つい先頃亡くなられた森村 誠一氏の偉業の一つ「悪魔の飽食」を手にしたのはもう随分前になる。満州において十二年もの間、石井 四郎・軍医中将の下、731部隊が3千人もの中国人、蒙古人、ロシア人等へ生体実験をしたのだ。「マルタ(丸太)」と呼び、意識ある人間以下にした。

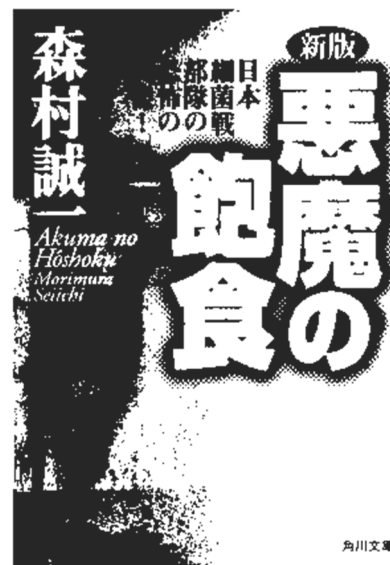
演劇人・藤田 伝氏の話に「戦争の後には飛躍的に(芸術と医学)は進歩する」と言っていました。正にその通り。人間を生きのまま部屋に入れて真空にしたり、胃と腸の管を入れ替えたり(これを胃腸返しといった)、コレラ・ペスト・チフス菌を生体に注入したり、3・5・10mと離れたところに彼らを縛っておいて爆発させたり、馬の血液を注入したり、こうしたことをするとどうなるか。全て生きのまま。平和時にはとても試みられない医学者の「興味ある」こと。

終戦時には生き残っている者全員を爆殺して敗走。絶対かん口令を強いたそうだ。

これらの証言は、元隊員の中で良心の呵責に耐えられぬ者が取材に応じたそうです。

そして、石井 四郎中将は、その実験資料とともにアメリカに連行され、戦犯は免れたとのこと。大戦中、東条 英機は石井 四郎中将を何度も訪問したそうです。

映画監督・山本 薩夫の次回作に「悪魔の飽食」は台本まで用意されていたのに… 惜しまれます。
(梅丘1丁目・湯沢 勉)



集 会 等 の 紹 介

9月6日(水) 13:00 JR 山手線・新大久保駅 改札付近集合で見学に行きます

高麗博物館企画展「関東大震災100年—隠蔽された朝鮮人虐殺」

植民地歴史博物館(ソウル)との連携企画

場所：高麗博物館(新宿区大久保 1-12-1 第二韓国広場ビル7階)

入館料：一般 400円(中高生 200円)

10月5日(木) 19:00~21:00 九条の会大集会 参加費：999円

大軍拡反対！憲法改悪を止めよう

スピーチ① 田中優子さん(前法政大学総長・九条の会世話人)

「岸田首相の軍拡・改憲に反対する声を！」

② 中野晃一さん(上智大学教授・市民連合運営委員)

「改憲・軍拡ではなく、『安心供与』を」

場所：「なかのZERO」大ホール(JR中野駅南口下車徒歩約10分)

共催：九条の会 10・5大集会実行委員会

日本国憲法(抜粋)

第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。

国の交戦権は、これを認めない。

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、
「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～
+++ このニュースを、ぜひ、周りの人に広めてください。 +++